

需要獲得

ものづくり

明利酒類株式会社

茨城県水戸市

時代に合わせた付加価値の高い新商品を製造販売 コロナ禍で医薬部外品事業の新工場を設立

江戸時代末期に創業した加藤酒造店を前身として、清酒、梅酒、焼酎、ジン、ウォッカ、リキュールなどを製造し、国内外に展開する、総合酒類メーカー。日本酒の味の決め手となる酵母とアルコールを、全国の酒造会社に販売し、清酒文化を下支えする役割を担う。

ものづくりへの情熱をもとに、副将軍、百年梅酒などの自社ブランドを製造、また2021年に医薬部外品新工場を設立、消毒液の生産を開始。

所在地 茨城県水戸市元吉田町338
電話/FAX 029-247-6111 / 029-247-9585
URL <https://www.meirishurui.com/>
代表者 代表取締役 加藤 多彦

設立 1950年
資本金 9,600万円
従業員数 95人



お客様のことを徹底的に考え抜いた、新商品開発

若者や女性の日本酒離れに対し、リキュールを使った低アルコール飲料やノンアルコール飲料の需要が高まっている。そこで同社は茨城県産のさつまいも「シルクスweet」のペーストを使用した新感覚焼き芋リキュール「酔う焼き芋」や、世界最大の梅酒イベントである天満天神梅酒大会で日本一を獲得した「百年梅酒」の味に極限まで近付けたノンアルコール飲料「百年零-ZERO-」の開発を行い、市場活性化を図るとともに、さまざまな飲用シーンの提案を発信している。



新しい需要に合わせた「酔う焼き芋」

消毒液不足に高濃度ウォッカを販売、その後医薬部外品工場新設

新型コロナウイルス感染拡大により、消毒用アルコールが全国的に不足するなか、全国に先駆けて手指の消毒液として代用可能なアルコール度数65%の高濃度ウォッカ「メイリの65%」の製造を開始し送料一部負担し全国に配送した。その後、医薬部外品の新工場を設立し、MEIRIの消毒を開発。公衆衛生に貢献する新規事業を立ち上げた。



指定医薬部外品の「MEIRIの消毒」

キャンプで楽しむお酒の商品開発で、地域経済を活性化

茨城県は163件という全国最大級のキャンプ場数を誇る。新型コロナウイルス感染症の影響によりアウトドアレジャーが注目されたことから茨城県が「いばらきキャンプ魅力発信事業」を展開していることに同社は着目。茨城県キャンプ協会協力のもと、キャンプ場でも飲みやすい300mlサイズの「CAMPING PLUS」を茨城県民の日に販売、茨城県産のサツマイモを使用した芋焼酎と純米吟醸酒、麦焼酎の3種類で売上の一部は茨城県キャンプ協会に寄付し地域経済活性化と社会貢献に繋がる取組を行っている。



地域経済に貢献する新しい試み